

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部 農林水産局 林務課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	林務課長 三上幸三 (構造改善係長 築山佳永)	内線	4100 (4112)
------	-----------------------	-------------------------	--------------------------------	----	--------------------

事業種目	森林空間活用施設 整備	事業名	事業区間	総事業費	3.9億円	
		林業経営構造改善事業	神崎地区	内用地補償費	0億円	
所在地				事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
神崎郡神崎町根宇野1019-13				H18	H18	H18
事業目的			事業内容			
<p>当施設は昭和57年度の林構事業等により整備し、都市農村交流施設として多くの利用者で賑わってきたが、施設の老朽化が目立つため、町単独事業で施設をリニューアルするとともに、今後増加が予想される中高年齢層の交流者を取り込むため、宿泊交流施設等の機能を強化する。</p> <p style="text-align: center;">(事業主体：神崎町)</p>			<p>食堂 1棟、床面積500㎡、木造平屋建て（渡り廊下200㎡を含む）</p> <p>宿泊棟 1棟300㎡、6部屋、木造平屋建て</p> <p>コテージ 5棟、1棟50㎡、木造一部2階建て</p> <p>事業主体 神崎町</p> <p>補助率：国50%・県8%・町42%</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>神崎町は林構事業のグリーンエコ笠形、ピノキオ館、農構事業のヨーデルの森、山振事業の新田ふるさと村等のそれぞれの特徴を持った都市農村交流施設を整備し、それぞれが補完しながら町全体で年間100万人の交流人口創出を目指している。平成15年度では町全体で年間40万人余りの交流人口があり、その内、グリーンエコ笠形で約1/3の14万人が利用している。</p> <p>しかし、類似施設の増加や少子高齢化の影響、築20年以上が経過して施設の老朽化が目立っていること等から、ピーク時（192千人、H9）に比べて平日やオフシーズンの利用が低下している。そこで既存施設の町単リニューアルとあわせて、中高年齢層等も取り込んだ一層の交流者を受け入れるため、食堂施設や宿泊施設を強化し、農林業を通したより活発な交流活動の展開を図る必要がある。</p>					
(2)有効性・効率性	<p>・事業実施により次の効果が期待できる。</p> <p>交流人口の増加：年間約6.5千人の宿泊者の増加と食堂施設利用者約7.7千人の計15千人の利用者増が見込める。</p> <p>特産物販売の増：既存の総合案内所内の食堂スペースを特産物展示販売所に改修することにより、林産物、農産物、加工品の売上げが見込める。</p> <p>・費用便益比：B/C=2.05</p>					
(3)環境適合性	<p>周辺の森林は複層林、針広混交林、野生動物共生林、天然林整備等の多様な森林整備を行うとともに、老朽施設の跡地を利用するなど樹木の伐採を控え、仮に伐採木が発生した場合は施設整備に利用するなど、周辺の景観に適合した県産材を使用した木造施設とする。また、交流人口の増加とともに、地域で生産される減農薬野菜・果実の販売増が見込まれ環境創造型農業の推進にも寄与できる。</p>					
(4)優先性	<p>山村地域の定住化や都市と山村の交流促進のための「楽農・田舎人特区」の認定を平成17年3月28日に受け、市民農園整備やふるさと青年事業等の新たな事業に取り組むこととしている。また、施設の老朽化が著しく進んでおり、地域住民も参加した活性化計画を樹立し、町単でリニューアルすることとしているので、当事業の実施はこれらの取組との相乗効果が期待されるので優先度が高い。</p> <p>なお、当施設は神崎町の顔として多くの人に長年親しまれ、知名度も高いため、機能強化効果が素早く現れると予想される。</p>					